

長久手市タウンミーティング会議報告

- 1 開催日時 令和8年7月12日(日) 午前 10 時 30 分～
- 2 開催場所 北小校区共生ステーション
- 3 参加者 11名
- 4 内容 市長あいさつ（市政報告）、市民の皆さんと市長のフリートーク
- 5 主な意見(要点筆記)

（高齢者の活動場所の充実）

Q N-バスの 75 歳以上運賃無料化の取り組みはありがたいです。さらに、高齢者が簡単にできるスポーツ(モルックなど)ができる場所を充実してほしいです。家に閉じこもっている高齢者も参加できる場も創設してほしいです。

A 高齢者が N-バスで出かけた先で交流できるような場を増やしていくことを検討しています。長寿課では、様々な健康教室などを行っていますが、社会福祉協議会やまちづくり協議会、シニアクラブとも協力して進めていきたいと考えています。また、N-バスでの移動も難しい場合は、自宅まで送迎を行う「短期集中予防サービス」も行っています。

（地域のごみの回収場所の周知）

Q 地域の特定の場所にある地域のごみの回収場所がわかりにくいので、周知してもらえないでしょうか。

A 地域のごみの回収場所は、市で決めているのではなく、自治会で申し出があり設置しています。環境課にお問合せいただければ案内できますが、周知については、関係部署で共有させていただきます。

（公共施設の大規模改修工事）

Q 現在、ござらっせの改修工事、杣ヶ池体育館の改修工事が行われています。市は多くの公共施設を抱えていますが、財政的に問題はないのでしょうか。

A ござらっせの改修工事は、運営を民間事業者に切り離しており、一部を除き、改修費用は事業者が負担します。杣ヶ池体育館の改修工事は約5億円を見込んでいます。今後、文化の家や福祉の家、図書館、学校なども老朽化に伴う大規模改修が必要となります。公共施設の改修に伴う財源確保が課題であることから、事業総点検を通じて、事業の見直しや縮小・廃止を含めた検討を進めていく必要があります。

(若者へ届く情報発信)

Q リリモテラスでのワークショップやセミナーに参加していますが、若者に、このようなイベントの情報が届いていないと感じます。例えばリリモテラスやアピタ、イオンモール、電車など、若者の目に留まりやすい場所に情報発信コーナーを設置してはいかがでしょうか。長久手市は日本一平均年齢が若いまちなので、より多くの若者が活躍できるような仕組みや場所を増やしてほしいと思います。

A 若者が情報に触れられる機会を増やせるよう、情報発信の充実を強化していきたいと考えています。現在イオンのデジタルサイネージで映像を流すなど、色々な手段を検討しています。まずは、情報を届け、関心を持っていただくことで、一緒にまちをつくっていききたいと思います。

(若者へ届く情報発信 学校で市政の授業を)

Q 若者への情報発信の手段として、高校や大学の授業に、市政を取り入れるのはいかがでしょうか。長久手市は「住みやすいまち」というイメージですが、あえて市が抱える課題を伝えることで、若者が危機感を持ち、まちづくりへの関心を深められるのではないかと思います。

A 学校の授業で市政を取り上げるというご提案について、今後、検討していきたいと思います。特に高校生以上のこれから社会に出る世代に対して、行政の動きが自分たちの生活に直結していることや、市が抱える課題について知ってもらう機会を増やしていきたいと思います。

(N-バス利用)

Q N-バス運行について、採算はとれていますか。利用者数はどのようでしょうか。

A N-バスの運営には年間約1億円の経費をかけており、運賃収入で、採算がとれている状況ではありません。物価高騰などの影響もあり、今後は、運賃の見直しも検討していく必要があります。一方で、75歳以上の運賃無料化により、4月から6月までの利用者数を前年度と比較すると約2,000人増加しています。今後もより多くの人に利用していただけるよう、利用促進に向けた取り組みを進めていきます。

(市の将来ビジョン)

Q 市の財政状況は、これまで先送りされてきた課題が一気に表面化しているようにも感じます。市政を維持していくために、将来像を踏まえ、限られた財源の中でどのような取り組みを進めていく考えでしょうか。

A 令和8年度予算を編成する際に約4億円の財源不足という課題に直面し、非常に厳しい財政状況にあります。財政計画を見直し、持続可能な市政運営の基盤を整え、誰もが希望を持てるまちづくりを進めていきます。

（市の財政）

Q 2040 年まで公共施設の改修工事が続く一方で、現在は平均年齢が若い長久手市も、将来的には、税収の減少が見込まれます。このことについて市長はどのように捉えていますか。

A 長久手市は昭和 40 年代から区画整理事業を進め、田んぼだったところに家が建てられ、急速に発展してきました。その結果、過去の国勢調査では日本一平均年齢が若いまちとなり、働き盛りの人口も多く、税収にも恵まれてきました。一方、今後 20 年ほどで急速に高齢化が進むまちベスト5に入るともいわれており、将来を見据えた行政運営が必要となります。

そのため、市民一人ひとりの健康づくりを進めるとともに、市民へ丁寧に説明しながら事業総点検を実施し、時代の変化に合わせて事業の見直しや縮小を進めていく必要があります。

これまで積み上げてきた事業や施設を整理し、将来にわたり持続可能な行政運営につなげていきたいと考えています。

（杵ヶ池体育館の修繕）

Q 杵ヶ池体育館は、大規模改修工事により休館になりましたが、外から見る限り工事が始まっているようには見えません。休館期間が必要以上に長く設定されていないでしょうか。また、改修工事の内容については、スポーツ協会などの意見を聞いてほしいです。

A 公共施設工事の実施期間については施設を利用できない期間をできる限り短くするため、必要最低限で設定しています。工事の実施にあたり、円滑に進めるための準備や段取りの期間も含まれています。

公共施設工事は、一定の品質を確保し、今後も利用いただける水準を維持することを前提とした上で、できる限りコストを抑えて実施しています。財政状況と当事者の意見の両方を踏まえながら適切に進めていきたいと思います。

（市の評価）

Q 長久手市の評価「住みよさランキング」はどのようなですか。

A 東洋経済の「住みよさランキング」では全国3位となり、高い評価を受けています。

市民の富裕度、一人当たりの公園面積、医療機関数、大型商業施設が充実、平均年齢が若いことなどが評価につながっています。本市は、全国的に見ても住環境や利便性に恵まれたまちとして評価されています。